



佐賀ダルクを支援する会 家族 M.K

皆さん、こんにちは。

私は、薬物依存症の子を持つ親です。

今朝、海岸沿いをいつものように愛犬と散歩をしながら、秋景色を満喫してきました。とても平安で幸せな気分です。

思い起こせば、突然の発覚でした。今から11年ほど前の事です。

息子が覚せい剤を使っている事を知った時の驚きとショックは、私の人生を変えるほどの出来事でした。

泣いてどうする事も出来なかった。毎日何が起こるかびくびくとしていた。それでも一生懸命、息子の望む事は何とかしてやりたいと、奔走してすっかり巻き込まれていた。母親として、私しか息子を助けてやれないのだと思い込んでいた。

そんな状況の中で、同じ様にエキサイティングに走り続けていた息子。少しずつですが、家の中の空気も狂い始めていました。そんな中、夫、長男、三男は、感情的に巻き込まれないように、私たちから距離を置いて接していました。今思うと賢い選択だと言えます。残ったのは、私と当事者だけ。二人とも狂気の世界に入っていました。

4年程経ったある日、思い切って息子に告げました。病院で治療を受けるか、警察へ行くか、どちらかを選びなさいと。

息子は、病院を選び、即入院となりました。薬物依存治療専門の病院へと繋がるのに4年もかかりました。世間体と、いつかは落ち着くだろうと甘く考えていた私でした。それから山あり谷ありの毎日で、心の休まる時は無く疲れ果てて、私はある自助グループに助けを求め、週に3～4回黙々と足を運びました、家事も手につかなくなり、周囲の状況も見えなくなり、どうして良いかわからない。精神のアップダウンの激しい本人との緊張した生活。

私は、当時ダルクオープンミーティングにも毎週通うようにもしていました。

そこでも色んな気付きを与えられ、当事者の苦しみなどを知る手助けにもなり、有難く思っていました。それでも息子から手を離すことが出来ず、共倒れ直前まで行きそうになり、事態が悪い方へと向かっているのに、どうする事も出来ませんでした。

それから何年か経ってやっと、本人と距離を置く事の大切さを知り、少しずつ息子の言動、行動に反応をあえてしないよう、意識して態度を変えて行こうと決心しました。



佐賀 DARC をいつも見守ってくれている恵比寿様、家族の M.K さんも同じようにいつも DARC メンバーに気をかけてくれる優しい方です

Drug Addiction Rehabilitation Center

そのうちに、本人も何かを感じたのでしょう。ある日、「ダルクに行く。」と自分の口で言ってくれたのです。8年半が経っていました。「これで息子の命が救われた！」と安堵した事を今でも思い出します。

あれから3年、お互いに離れてやっと冷静になれています。私は私で自助グループに通いながら、自分の生き様を見直す作業をしています。

息子もかの土地のダルクでステップとプログラムという勉強をしているし、何より同じ仲間の中で、一人ぼっちじゃないのが有難いと思っています。ずっと何かしら生き辛さを抱えて孤独に生きてきた息子。24時間気持ちが休まる時が無いと言っていた息子。想像を絶するほど、苦しく辛く、淋しかっただろうなあ、、、。

ダルクで、うんと楽しんで、自分らしく、丁寧に今日一日を暮らしていけたら、私はそれだけで良いと思っています。

これまでに出会った様々な人達がいたから、今この平安を感じる事が出来ます。つくづく感謝の気持ちが沸いて来ます。

薬物問題が発覚したら、一人で悩まないで早いうちに相談機関に足を運びましょう！当事者の病気が重くならないうちに、苦しませない為です。

私は、息子を苦しませ長引かせてしまいました。そして何より親は、心おきなく安心して話せる仲間と居場所を見つけて、肩に背負ってる荷物を少しでも軽くする事だと実感しています。

これからは、まず私が健康にすごせるように、自分を大切に守って行こうと思っています。



SAGA インターナショナル バルーンフェスタ毎年開催されているイベントへ仲間と。車も大渋滞で動かず、物凄い人出に、人ごみが苦手な仲間は無口になりテンション下がりが味でしたが、佐賀少年刑務所の中からはしか見たことがないというバルーンを外でもう一度見てもらいたくて来てみました。

150機参加しているというバルーンが一斉に膨らみ飛び立っていく様は壮観で、仲間達も声にならない感動をしていました。「また来年も見に来よう」と言う言葉には、薬を使っていた時には明日の事すら考えられなかった仲間達の中に未来があることを感じさせられます。

私は出所の度に娘の前で、「すまない…」と心に思いながら涙を流しているのですが…その思いも時間が経つにつれ薄れていき…気づいたときには逮捕されているという繰り返しです。これほど娘のことを思っているのに繰り返すのです。

わかっているようで、わかっていないのです。自分の事が…

苦しんでいるのに出口が見えません。

先日、弁護士の先生からニュースレターを差し入れていただき拝見しました。しつこい笑顔が印象的でした。私もあんな笑顔は何年も忘れていた。もうあんな笑顔は「薬物を使い続ける」と苦しみながら家族からの言葉がなかったという文に読んで切なくなりました。私の娘や親もそんな思いなんだろうと思うと心が痛くなってきました。

今度こそ薬を止める決心です、相談にのってください。

刑務所
からの
手紙

私は今回に限らず、これまで何度か薬物を用いて入所しています。入所を繰り返すたびに、薬物からの離脱の意識は強くなっているのですが、望み通りに出たとしても薬物乱用を繰り返してしまっている自分がいます。

これまで、15歳の頃からシンナーを用いて覚せい剤や大麻にも手を染めてまいりました。今までは自分自身でどうにかしよう、自分のことだから人に頼るまいとしていた自分がいました。

でもそれだとやはり駄目な刑務所へ行く日々となっていました。

私一人ではやはり前と一緒に自分に戻そうと不安です。

一人ではなく周りの人々の中で薬物離脱していけるような環境があると知り、ぜひその中で薬物離脱に取り組んでいけたらと思っています。

8名程の受刑中の方と、1クール6回のミーティングを行います。

以前、札幌や島根、福岡の刑務所で関わった仲間とダルクで再会し回復していく姿を見せてもらいました。

全国の刑務所で、ダルクが回復のメッセージを運んでいます、佐賀でも多くの仲間の回復への種を蒔く活動が続けていければと思っています。



Drug Addiction Rehabilitation Center

薬物依存症 M



こんにちはアディクトのMです。

DARCにつながって5カ月がすぎました（DARCにつながり1カ月が経とうとする頃に施設を飛び出して家に帰りガスを使いスリップしたので、クリーンは4カ月です）僕は色々な薬物を使ってきて、最後に使っていたのがガスでして、去年の今ごろはガスを使ってたせいで大阪のマンションを追い出され、実家に戻るはめに成り、それでもガスが止まらなくて佐賀県のH病院に入退院し始めたころです。

入退院してる頃は生きてる心地はしてなかった様にも思えます。1人の殻に閉じこもり、何に対しても関心も無く感情も無くなっていて、やる気もないし、考える事も動く事もめんどくさい、ただガスさえ使っていられればそれでいい、気分が変わるものなら何でもよかったんだと思います。今、目の前にガスを出されても使いたいと思わないけど、（先日夕食で鍋をしてカセットコンロを使いガスを目の前にしましたが何とも思わなかったのですが、施設につながって何日めだったか、台所にガス缶があるのが見え、みんなが居なくなった時にそのガス缶を探したのですが、ある筈もなくすでに代表が事務所にそのガス缶を隠してあったのが、その鍋をした時わかりました（笑）覚醒剤を目の前に出されるとブレる自分がいるかもしれませんがそんなこと考えてもなんにもなりませんし、試す必要もないなと思う様にはなりました。

入退院し始めた1年前に比べて今は薬物にとらわれることも無く生活させてもらえています。それも仲間のおかげだともおもいます。仲間と一緒にミーティングをしたり、一緒に温泉に行ったり、一緒に焼き肉の食べ放題にいたり、この前はフリーマーケットで出店して、仲間と交代で他の出店物を見に行き、安くて良い服を見つけて買って帰ると、仲間も負けずとより安く良い服を見つけてきて自慢げな顔をして帰ってきていました（笑）そんなことをしながら失っていた感情も少しずつ出てきて何となく楽しめているんだろうと思いますし、仲間と一緒にいることでいろんなものやことをみせてもらえたり感じさせてもらえたりしながら生活させてもらえています。

ありがとうございました。



薬物依存症 まこちゃん

みなさんこんにちは依存症のまこです。

佐賀新聞の取材を受けてからも一度、施設を飛び出してしまいました。

この時も事態は深刻だったように思いますが、結局薬は使えませんでした・・・ですがこの機を

境に僕は薬物抜き的人生について少しだけ真剣に考えるようになりました。

感覚だけで生きてきた僕にしては上出来です。

今は薬物抜き的人生を信じてみようって強く感じています。EVERYDAY NEWDAY 僕の好きな言葉ですが、今そんな心境です。

佐賀ダルクに新しい仲間が、海を越えて沖縄からやってきました。私自身はじめての入寮は沖縄の施設でした、海を隔て離れているだけで地元がこんなにも遠く感じるのかと、着いたすぐから「帰りたい」と辛く寂しかったのを覚えています。

薬物によってどん底をついていて、何度も自殺未遂を繰り返して生きて行くことも死ぬことも選べずに辿り着く仲間達がほとんどです、地元で暮らすと使ってしまうと「新しい人生を選ぶために佐賀に骨を埋める気持ちでいます。」

回復の大きな変化の前には苦しみ痛みと変わるたぎが必要なんです。

初めて辿りついた仲間を、佐賀市内で一番高い県庁の最上階の展望台へ連れて行くのが恒例になりました「ここがこれから暮らしていく新しい場所です、共に回復していきましょう」と伝えています。

佐賀ダルク入寮はまだ3人の仲間だけですが、飛び出して帰ってこない人も出ず皆回復を歩んでいます、「薬中が薬物を使っていないって事だけでも奇跡なんだ」と言われた事がありましたが、今いるメンバー達の欲求を乗り越えようと苦しんでいる姿などを見ると佐賀ダルクの全員使うこともなくメンバーが入れ替わることもなく暮らしていることは奇跡だなと感じています。

今後も刑務所からの帰住地として佐賀ダルクへ来る事が決まっている仲間も数人います、多くの仲間の回復の場として今後も活動が続けていけるよう願っていますが、車の修理代やプログラムで使うガソリン代など運営面はいつも困窮した状態です、まだまだ入寮者と共によちよち歩きを始めたばかりの佐賀ダルクです、心苦しいお願いですが佐賀ダルクの活動を支えていただけないでしょうか何卒宜しくお願いします。

記者日記

「圧倒的にやめ 5月、れまでずっと薬物 起きたらマコさん。偶然、たい気持ちが大き を断ち続けてきた。しかし、一緒に回復を目指す仲間が、いですが、使いた 今月初め、強烈な欲求に襲 乗ってきた。使いたくて、見つめ直す機会となり、依の事も、どち われた。使いた、ついに うつむマコさんを責める、存症の深い理解へとつながらも本当の自分で 集会を抜け出し、高速バス こともなく、事情を察したる。」

逃げ出しても

からの回復を支援 する民間リハビリ 施設「佐賀ダルク」に飛び乗ってしまっ。仲間は、福岡のダルクに運 月ぶりに会った依存症のマ 「地獄に逆戻りするの れて行てくれた。 マコさんは、自分に言い聞か か。バスの車中、自らの 「逃げ出した経験は、逆 行動とは真腹に、「一抹の後に良かったと思えます」とす。そついう社会を後押し 自分意思で、佐賀ダルク 悔がききつた。そして、佐賀ダルク代表の松尾周さ くの門をたたいたのが今年 「二つ目のバス停で奇跡が ん。依存症とは一生付き合

新聞週間(16、24日)



めの大変なエネルギー

